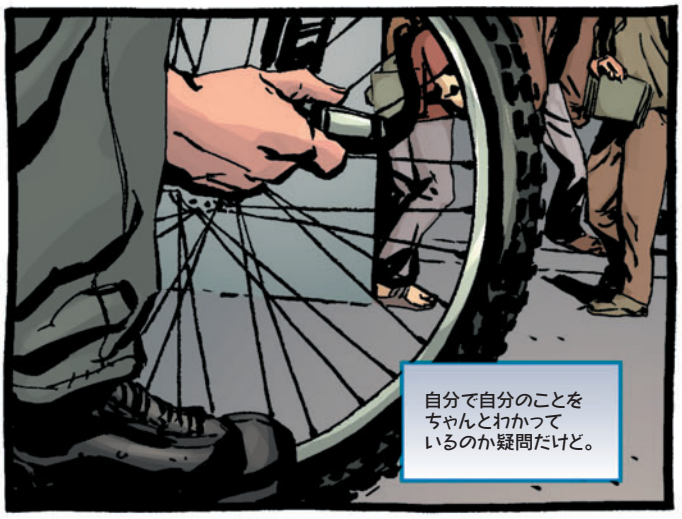
HEROES

CHAPTER 62
スペシャル

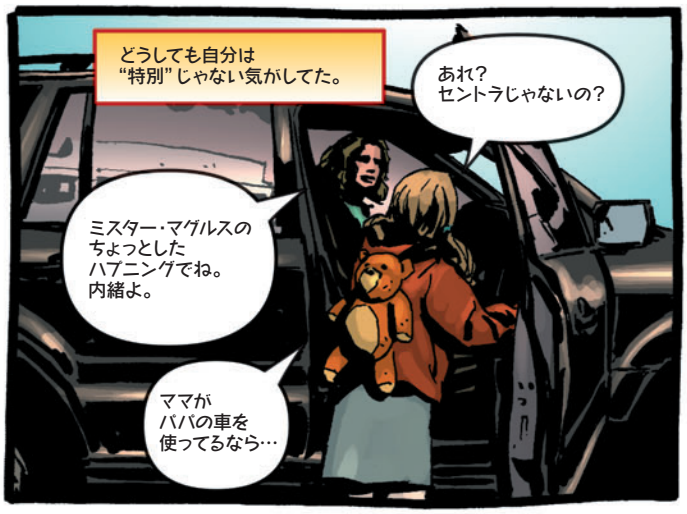
クレアの父親こそが、自分を誘拐した男だった。
ウエストは、衝撃の事実を知ってしまった。
あの日、いったい何が起きたのか…？

誰もわかってくれない。

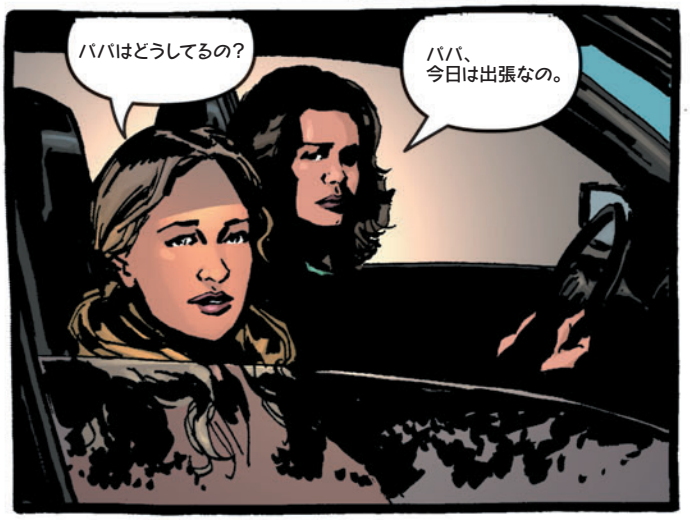

自分で自分のことを
ちゃんとわかって
いるのか疑問だけど。

テキサス州 オデッサ
周りはみんな
自分のことが
わかってるみたい。

ミズーリー州 セントルイス
どうやら、みんな
なりたい人になるための
計画表を持って
生まれてきてるみたいだ。


どうしても自分は
“特別”じゃない気がしてた。
あれ?
セントラじゃないの?
ミスター・マグルスの
ちょっとした
ハプニングでね。
内緒よ。
ママが
パパの車を
使ってるなら…

僕はそういうフリを
しているだけ。


パパはどうしてるの?
パパ、
今日は出張なの。

つまんない。
ここで起きることは
全部ありきたり。
どこか違うところに行きたい。
どこでもいいから、
ドキドキするような
何かが起きるところに。
クレア！
パパを迎えに
行ってくるわ！
一緒に行く？
自分から行かないと
ダメなんだろうな。
何が起きているのか
全然わからなかった。
能力は現れているか？
まだだと
思います。
必要なデータを測定してくれ。
その後でクオリティ・チェック、
追跡タグ。
チェックアウト前に
“消す”のを忘れるな。
了解です。
ただ、気をつけてくれ。
まだ子供なんだ。
丁重にな。
もちろんです。
とにかく、
家に帰りたかった。
SPECIAL
JOE POKASKI Story MICHAEL GAYDOS Art CHRIS SOTOMAYOR Colors COMICRAFT Lettering NANCI QUESADA Editor

パパを迎えに
中に入ってきていい？

完全検査の
地上最速新記録だな。
でも、あの
“丁重に扱う”って、
どうしたんだ？
ボスも、まるく
なったんじゃないか？
ボスに限って、
あり得ないよ。
ここから逃げないと。今すぐ。

ATECH PAPER CO.
DESSA, TEXAS
パパの会社の工場は
何か秘密があるような気がしてた。

何かが起きていた…

扉の向こうに“謎”がある、って
想像するのが好きだった。

ありえないこと…
奴ら、一体
僕に何をしたんだ？！
“これ”を使って、
ここから逃げ出せる？

今日は、どんな謎を
見つけられるかな？

この上には
出口がある。
そう願うだけだ。
…こんなこと、
なんでできるんだ？！

君!
君も奴らとグル?
グルって?
助けてほしいんだ!
どうすればいい?
でも、そんなところで
何してるの?
わかんないんだ。
名前教えてくれる?
クレア。
いったい、
どうしたの?
クレア。
彼女みたいな
女の子に会ったのは
初めてだ…
君みたいに超かわいい子とは
どうやって話していいか
わかんないんだけど…
頼むから助けてほしいんだ。
私のこと、
“かわいい”って
言った?

どうやって
そこに入ったの?
僕も
わかんないんだ。
でも…
あ、
気をつけて!
後ろ!
クレア!
よかった!
パパならどうすればいいか知ってるはず。
パパ、通気孔の中に
男の子がいるの。
助けてあげて。
何だって?
誓うわ、本当よ!
わかったよ。
どれ、パパが
見てみよう。
ね?
クレア、
誰もいないよ。
私の想像だったの?ぜんぶ?
突然、何もかも
夢のような
気がしてきた…

冒険はそれでおしまい。
普通の一日っていうのも、そう悪くないかも。
昨日一日、どこにいたのか、わからない。
覚えているのはあの男だけ。
あの眼鏡の男。
みんなも本当は怖がってるのかも。
私やあの子みたいに…私の想像だったかもしれないけど。
たぶん働いてたのかな。
もしかしたら、私はかわいいのかもしれない。それか、かわいくなれるのかも。
何が起きたのかわからない。でももう学校なんて怖くない。
あの冒険が刺激を与えてくれたのかな。
冒険心をくれたのかも。
チアリーダーのトライアウト、受けてみようかな。
もしかしたら…
僕は“特別”なのかもしれない。
The End